

中期計画
(2019～2024)

千里国際
中等部・高等部

各学校での承認
2023年 月 日予定
第 回運営委員会

責任者名: 千里国際中等部・高等部校長

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界市民育成:「Informed, Caring, Creative Individuals Contributing to a Global Community」を育てる。世界人権宣言の趣旨に基づいた世界市民として、世界のどこかで貢献ができる(Mastery for Service)人物を育てるキリスト教主義教育に基づく全人教育を実践する。 2. 学習内容、方法、評価の改革:Kwansei コンピテンシーに繋がるSIS Learning Compassに基づいて学習者とのパートナーシップを保ちながら社会の変化に対応した学習内容、方法、評価の改革をすすめる。 3. 6年間を通して育てる能力や資質の明確化:SOISでの学校生活を通して身につけてほしい能力や資質の共通理解と、段階的な指導・支援計画の確立と実践。 4. バイリンガル環境の充実と学習の個別化の推進:SOISのバイリンガル環境・文化をさらに豊かなものに発展させる。ブリッジングセンター(バイリンガルサポート)のサポートを広げ、学習活動や評価に個別化の視点と習慣を積極的に導入する。 5. Digital Technology, Creativity, Critical Thinking & Collaboration の展開:教科の枠を超えた学習活動や問題解決学習・起業活動の推進。 6. 世界標準の教育:SOISの特徴や文化を基盤に国際的に通用する教育活動を提供する。 7. 卒業後進路:関西学院大学への院内推薦率を上げ、10年一貫の教育を発展させる。一人ひとりの希望や現状に合った進路指導をすすめる。 8. 学ぶ学校:生徒だけでなく教員も学び続け、組織として成長する仕組みや文化を学校全体として創り出す。 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 5 Respects, Kwansei コンピテンシー、SIS Learning Competencies, SIS Learning Compassの系統的なつながりがすべての教育活動に反映 ● 学院行事への積極的参加 ● 奉仕活動 Service Learning の導入 ● AI、PBL、起業、Innovation などユニークな高大連携の学習機会の創出 ● 深い学びを実現する学習内容、方法、評価の確立 – SIS スタンダード ● ブリッジングセンター(バイリンガルサポート)の運営、情報発信 ● Idea Forum(教職員の学習の場)の充実と多様化。 ● Learning Fair(教育関係者を対象とした実践発表会)の開催。
<p>2. 児童・生徒獲得の方針</p> <p>SISの生徒構成(帰国生と一般生が約1対1の比率)は、この学校の特徴であり魅力でもある。これを維持するために、これまでの方法を見直し、効果的で効率の良いシステムを確立していく。</p> <p>学校のPRは生徒獲得のためになされるのではなく、学校の教育活動や生徒たちの活動・活躍を社会に広めることを基本方針とする。</p>	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none"> ● パブリックリレーションズ + マーケティングチームによる効果的で革新的な広報活動とブランディング ● 生徒獲得を目的とするものから学校と教育活動を知ってもらうことを主眼に置く広報に転換 ● 媒体のデジタル化、オンライン化 ● SNSの有効活用 ● Segmentation(市場の分類化) <ul style="list-style-type: none"> - 入学の可能性が高い保護者層・児童層に焦点を当てた効果的な広報活動へ転換

- SNS の効果的活用 (Facebook, Instagram 等)-
たとえば、2021 年 8 月 16 日から 9 月 12 日の期間に SIS の Facebook に入った人は 261% 増加、動画や画像を見た人は 865% 増加。
- Homepage のデザインや内容の継続的な更新 – たとえば 2021 年 8 月の大阪私学展で SIS ブースに来た保護者はみな SIS の Homepage から情報を得ていた。

3. 中期的な課題

<フェーズ 2(2022~2024)>

学習内容・方法・評価の改善:

- 学習プログラムの開発 - 個別最適化の推進:すべての子どもたちが深く学び成長する学習プログラム
- 学習指導法の開発 - 構造的思考力、批判的思考力、創造力の伸長:すべての子どもたちが深く学び成長する学習形態
- 学習評価の改善と開発 - すべての子どもたちの成長を正しく測定し常時伝える学習評価法と配信システムの開発

より良い学習環境の創出:

- Kwansei コンピテンシー、SIS ラーニングコンパスを具現化する学習環境の創出

自分にあった進路選択:

- KGU 進学に必要な GPA 基準を全 12 年生が獲得するための個別指導 – 2021 年度では GPA 基準に到達できなかった生徒は全体の 7%

教育と組織の質の向上:

- 学習共同体の創出:コエージェンシー(生徒と教師が共に学習を組み立てる)を基盤とする水平な学校文化
- SIS スタンダード(世界標準の学習内容、方法、評価)の開発と展開

一人ひとりの生徒に寄り添う:

- ブリッジングセンター(帰国生サポート)の運営、情報発信:SIS の特色の確立

組織の再編:

- ブランドアイデンティティと戦略の確立
- パブリックリレーションズ + マーケティングチームの確立
- プロフェッショナル グロース(専門的成長)リーダーの任命:系統的な研修と実践研究
- リーダーシップワークショップの開設:次期リーダーの育成と現リーダーの資質向上をめざす定期的な研修会
- 校務分掌組織の改編 – スチューデントラーニングチーム(生徒の知的発達に関わる校務)とスチューデントライフチーム(生徒の精神的社会的成長に関わる校務)を中核とする生徒中心主義の組織
- 年齢構成の適正化

【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】 として取り組むものに○
1 関西学院のアイデンティティの共有	○
2 千里国際高等部生徒の本大学への進学率維持(50%以上)	○
3 千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討	
4 学習環境、業務環境の改善	○
5 言語(日本語)、学習サポート体制の確立	○
6 IBDP日本語授業導入(再度)検討	
7 海外大学進学者増	
8 受験者増のための広報一般	
9 KG コンピテンシー+SIS Learning Compassに基づく深い学びの実現(SISスタンダード)	3の発展形
10 Future Pathways:一人ひとりの将来設計に丁寧に寄り添う	7,8の発展形

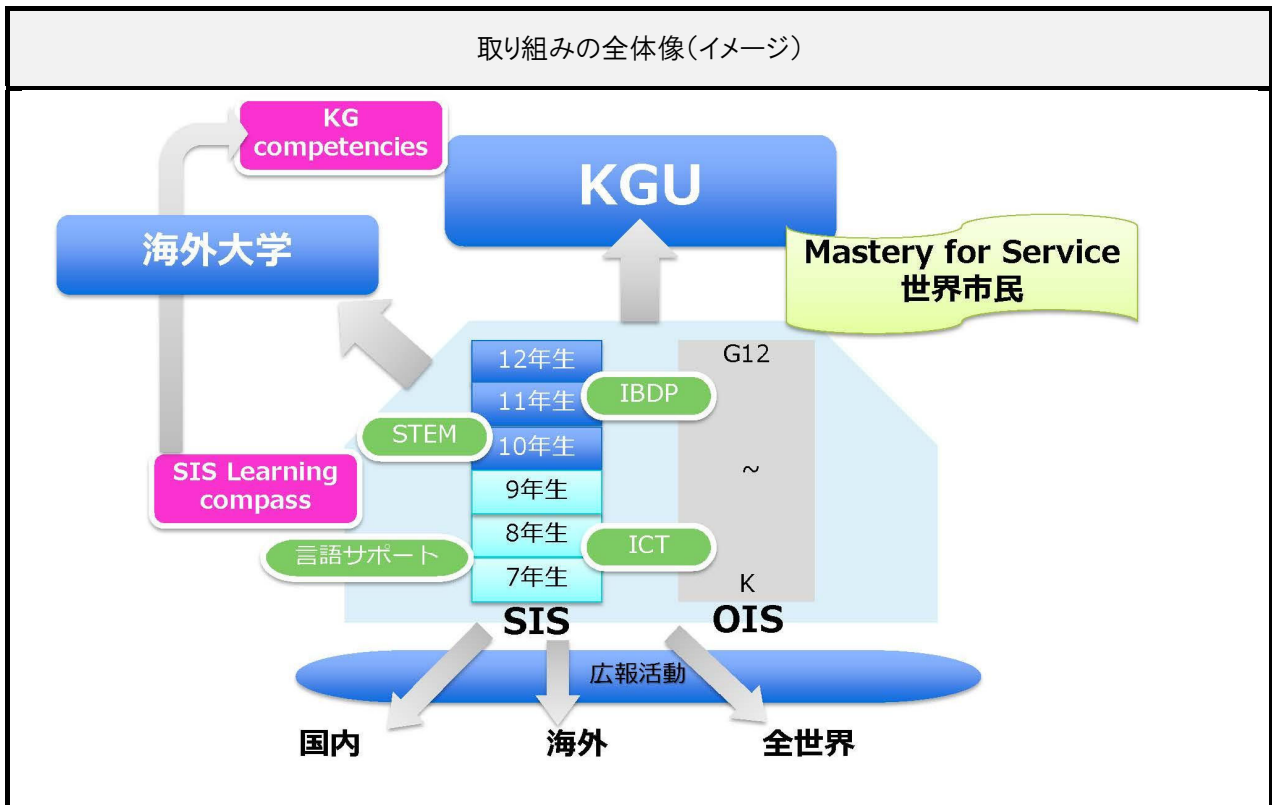
【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| ◎スクールモットーの認知度・共感度 | ◎大学への内部進学率 |
| ◎主体的で深い学びを実践する(SISスタンダード) | ◎ICTの効果的な活用 |
| ◎ブリッジングセンター | ◎自分に合った学校選び Future Pathways |
| ◎受験者数 | ◎生徒成長指数 |

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2023年3月末時点)

<p><1. 2022年度の中期計画の取組みにより明らかになった課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 関西学院のアイデンティティの共感度、認知度は Mastery for Service、世界市民などの言葉の認知度で測定できるものではないこと。 ● 内部進学はKGUに進学したいと希望する生徒が100%進学しているかが課題と思われる。毎年7%程の生徒が基準に達していない。 ● 教員の授業見学、学習方法、評価について考察する文化・習慣をどのように広げるか。共感者を増やすか。 ● ブリッジングセンターの開設に伴い、人的支援(個別指導を担当する教員)の確保が必要になった。 ● 一定の受験生を確保するものの、合格者の競合校(同志社)への流出が著しく多い。 <p><2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 関西学院の各学校との交流活動が生徒・教員間で活発になり、アイデンティティの共有度が増している。どの領域で活動を広げていくか。 ● 教員がより良い教育実践を続けようという共通意志は高いが、具体的な方法や内容で共通の認識や目標を持つ必要がある。 ● 教員全員が共に学んでいく文化と習慣を生むこと。 ● 情報共有の仕組みについては生徒、保護者から高評価があるが、適切な情報の伝達については評価が下がった。 ● 情報共有について約4割の教員から否定的な回答があった。 <p><3. 上記1,2を踏まえた2023年度以降に向けた展望></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 関西学院共通の行事に積極的に参加すると同時に、SOIS行事へも積極的に参加を呼びかける。 ● Idea Forumを核として自主的な実践研究の輪をさらに広げる。昨年10月に開催した Learning Fair以来つながった他校との協働的な学習、研究の可能性を探る。 ● 新組織体制の基盤をかため、SIS存在理由でもある帰国生支援をブリッジングセンターを中心にさらに充実したものに発展させる。 ● 情報共有の方法を改善し、online上だけでなく直接関わり合う機会を増やして、人間的な関係性を回復させる。
--

- 教育活動のすべてにおいて「正しいやり方」を明確化して、教員全員が理解し実践する文化をつくる。



以上